

越王だより

<http://www.makikita.city-niigata.ed.jp/>

令和3年8月27日 No. 7



更なる成長を目指して

校長 上澤田 誠

夏休み中に開催された東京オリンピックでは、日本人選手の活躍に注目が集まりました。

多くの感動的な場面があった中で、特に私の心に残ったのは、陸上男子400mリレー決勝での出来事です。1走の多田選手が絶好のスタートを切りましたが『攻めのバトンパス』で素早く飛び出した2走の山縣選手にバトンがつかず、まさかの途中棄権となってしまいました。

ショックでうなだれる多田選手と山縣選手。その二人のもとに素早く走り寄ったのは、3走の桐生選手です。二人を抱きかかえるように優しく肩をたたきながら、励ましの言葉をかけます。レース後のインタビューで、桐生選手はこう語ります。

「誰も悪くありません。みんなで、攻めのレースをした結果です。僕が予選でもう少し速く走って、多田さんや山縣さんが気持ちに余裕をもていたら、結果が違っていたかもしれません」

『世界最高の技術』とも言われる日本チームのバトンパスを中心となって作りあげてきた桐生選手らしい言葉に、思わず胸が熱くなりました。

さて、夏休みが終わり、前期の後半が始まりました。前期前半を通して理解を深めてきた「自分や友達のよさ」と「学年・学級集団の特長」を生かして、子ども自身の手で様々な活動を創りあげ更なる成長を目指していく時期に入ります。例えば、5年生が行う「妙高自然体験教室」がその代表的な例です。なりたい自分(たち)を思い描きながら、みんなで目指していく方向を話し合い、目標達成の方法を考え、実践を積み重ねていきます。

いつもうまくいくとは限りません。時にはつまずき、悩むこともあるでしょう。そういうときこそ成長のよき機会ととらえ、私たちは、子どもたちを精一杯励まし、支えていきたいと考えています。

決勝の翌日、桐生選手はレースを振り返って、次のように語っています。

「ここにくるまでの数年間、本当にたくさんの方々の支えがあって、たどり着くことができました。この場で走れたことは自分の人生の中でとても価値があることです。まだまだ自分の旅は終わりではなく、嬉しいことや悔しいことを経験して自分自身の最高のゴールを目指して走ります。次は、笑顔の嬉し涙を流します!!」

子どもたちも、自分たちで設定したゴールを目指して、様々な経験を積んでいくことでしょう。更なる成長につながる最高のゴールとなるよう、応援をよろしくお願いいたします。



水泳監視 のべ154名

テニスボール寄贈
巻高等学校テニス部
新潟西高等学校テニス部

登下校の見守り
セーフティスタッフさん 25名



巻北小学校は
たくさんの
ボランティアさん
に支えていただ
いています。
ありがとう
ございます。



3年町探検 のべ8名



松の剪定作業 のべ15名



本の読み聞かせ のべ18名



1年体験型安全教室 のべ6名



5年田植え のべ8名



3・4年角田山登山 のべ15名



5年裁縫 のべ16名